もりやま 歴史浪漫紀行

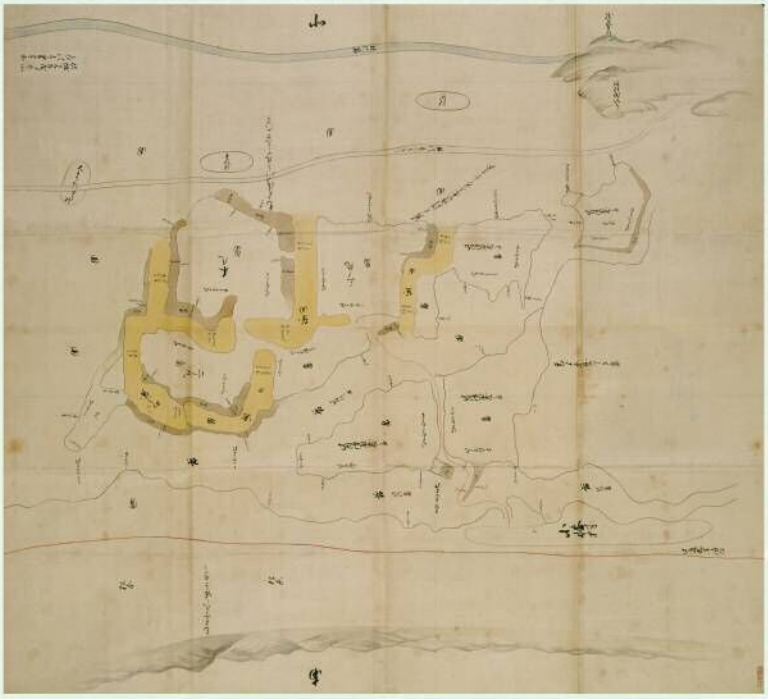
── 守山区と小牧・長久手の戦い ──

守山台地の北縁に立地し、西南に守山城・北東に龍泉寺・前面に小牧・犬山方面を一望できる天然の要害。
小牧・長久手の戦いで家康軍の重要な拠点となりました。
その後、廃城となりましたが、大正期までは「一、二土塁の破壊せられたるものの外大体古城絵図の如く現存」していました。（「愛知県史蹟名勝天然紀念物調査報告 第四」（大正15年（1926））
現在、これらの遺構は失われていますが、周囲の地形等から往時を偲ぶことができます。

「小幡古城図」（名古屋市蓬左文庫所蔵）

本丸の周囲に岡田助右衛門（重善）・土肥平六・富田喜太郎・小瀬久六・友作の屋敷が描かれています。

春日井郡小幡村古城絵図、国土地理院空中写真及び名古屋市都市計画基本図を加工し作成した図（楠昌明氏提供）



大永2年（1522）、岡田重篤の築城と言われています。一時廃城となっていたとされますが、天正12年（1584）小牧・長久手の戦いの折に徳川家康が修復して入城し、三河と小牧山とのつなぎの城として重要な役割を果たしました。
その後、再び廃城となり、寛文年間（1661～1673）には既に松林・畑になっていたと記されています。

東西百十間（約200m）、南北四十間（約72m）。
三つの曲輪からなり、二重堀で馬出しを備えた大規模な城郭であったことがうかがえます。

小幡城趾

左：「春日井郡小幡村古城絵図」（名古屋市蓬左文庫所蔵）
下：昭和30年代の小幡城趾（九州大学名誉教授 服部英雄氏 提供）

北側より小幡城本丸趾を望む

本丸趾北東側の土塁

名古屋市史跡標示